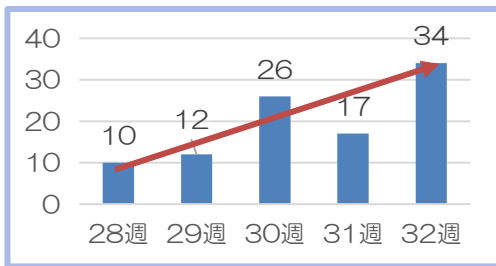


福島市保健所 感染症だより

平成30年度 第5号



◆福島市の感染症発生状況（7～8月にかけて）

- ・ヘルパンギーナが依然として流行しています。（左図参照：福島県発生動向調査より）
- ・RSウイルスが流行しています。
- ・福島市内で百日咳が発生しています。



ヘルパンギーナが流行しています！

◆症状

2～4日の潜伏期間を経過し、**突然の発熱**に続いて**のどの痛み**が出現します。

咽頭粘膜（のど）の発赤が顕著となり、口腔内等に直径1～2mm、大きいものでは5mmほどの紅暈（こううん：皮ふが部分的に充血して赤く見えること）で囲まれた**小水疱**が出現します。

小水疱はやがて破れ、浅い**潰よう**を形成し、痛みを伴います。発熱については2～4日程度で解熱し、それにやや遅れてのどの粘膜疹も消失します。乳幼児の感染が多く、**発熱時に熱性けいれん**を伴うことや、口腔内の痛みのために、**不機嫌、哺乳や食事を嫌がったり**、それによる**脱水**などを引き起こす恐れがあります。

◆治療・予防方法

特異的な治療方法はなく、対症療法のみ。特異的な予防方法もないため、

- ①日常的に（流行時は特に）**手洗いやうがい**、手指消毒の励行
- ②感染者との密接な接触を避ける などを心がけましょう！



手洗いうがいは大事だね！

百日咳が流行しています！

百日咳は、特徴のある咳が続き、治るまで2～3か月かかるため、「百日咳」と呼ばれています。感染経路は「**飛沫感染**」、「**接触感染**」であり、近年では大人の患者も増加しています。

◆症状

- ①カタル期…潜伏期間の7～10日を経て、**通常のかぜ症状**が出現。徐々に咳回数が増え、激しくなる。
- ②痙咳期…発作性けいれん性の咳が生じる。**連続性の短い咳**が起こり、**息を吸う時に笛のような音**が出る。
- ③回復期…激しい発作は減衰するが、時折忘れた頃に発作性の咳が出る（**成人では咳が長期的に持続**）。

◆予防方法

- ①**4種混合ワクチン**を受けましょう！（詳しくは下記連絡先または医療機関へお問い合わせください）
→接種時期になったら忘れずに受けましょう（効果は4～12年持続）。
- ②咳が出る方は**マスクを着用**し、咳が続く場合は**早めに医療機関を受診**しましょう！
→適切な抗菌薬を使用すると5日程度で菌は出なくなります。マスクの着用と早期受診に努めましょう。

～ワクチン接種計画を立てましょう～

お子様が予防接種対象年齢になりましたら、かかりつけの医師と相談し、計画的に予防接種をしましょう！きちんと接種することで病気からお子様を守りましょう！

発行日 平成30年8月末日
発行元 福島市保健所 健康推進課感染症対策係
住所 〒960-8002
福島県福島市森合町 10-1
電話 024-572-3152
HP 検索キーワード 福島市保健所 感染症